

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 2 区分

【発行日】平成30年10月18日 (2018.10.18)

【公開番号】特開2016-136064(P2016-136064A)

【公開日】平成28年7月28日 (2016.7.28)

【年通号数】公開・登録公報2016-045

【出願番号】特願2016-1991(P2016-1991)

【国際特許分類】

F 1 6 C 41/00 (2006.01)

F 1 6 C 33/76 (2006.01)

F 1 6 C 19/18 (2006.01)

B 6 0 B 35/02 (2006.01)

G 0 1 P 1/02 (2006.01)

G 0 1 P 3/487 (2006.01)

【F I】

F 1 6 C 41/00

F 1 6 C 33/76 A

F 1 6 C 19/18

B 6 0 B 35/02 Z

G 0 1 P 1/02

G 0 1 P 3/487 F

【手続補正書】

【提出日】平成30年9月6日 (2018.9.6)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 7】

但し、上述した様な従来構造の第 1 例の場合には、次の様な問題を生じる可能性がある。即ち、前記軸受キャップ 8 を構成する底板部 1 2 を軸方向に貫通したホルダ挿入孔 1 6 に、前記ホルダ本体部 1 9 を挿入する構成を採用している為、このホルダ挿通孔 1 6 を通じて、前記軸受キャップ 8 の内部（底板部 1 2 の軸方向外側）の空間に、泥水等の異物が侵入する可能性がある。又、前記ホルダ挿入孔 1 6 だけでなく、前記ボルト挿通孔 1 7 に就いても、前記底板部 1 2 を軸方向に貫通している為、前記センサホルダ 1 4 を前記軸受キャップ 8 に支持固定する以前の状態で、前記両孔 1 6、1 7 を通じて、この軸受キャップ 8 の内部の空間に異物が侵入する可能性がある。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 0】

又、前記底板部 1 2 b は、全体を略円板状に構成されている。この様な底板部 1 2 b のうち、円周方向一部分（使用状態で、図 1 ~ 3 に示す様に、上半部の前後方向（図 3 の左右方向）中央部に位置する部分）に、他の部分よりも軸方向厚さ寸法が大きくなった（軸方向内側に向けて膨出した）筒状のコネクタ部 3 9 が設けられている。このコネクタ部 3

9の外周面の軸方向から見た形状は、図3に示す様に、径方向（図3の上下方向）に伸長する長円形状である。又、このコネクタ部39の径方向内側には、このコネクタ部39の軸方向内側面側にのみ開口した有底のキャップ凹部40が設けられている。このキャップ凹部40の内周面（前記コネクタ部39の内周面）の軸方向から見た形状も、図3に示す様に、径方向（図3の上下方向）に伸長する長円形状である。前記軸受キャップ8bを前記外輪2の軸方向内端部に装着した状態で、前記キャップ凹部40の上端部は、軸方向に関して、前記エンコーダ13a（エンコーダ本体29）の被検出面の一部と対向する位置に存在する。又、前記キャップ凹部40の前後方向幅寸法は、前記センサホルダ14bを構成するホルダ本体部19bの外径寸法よりも十分に大きくなっており、前記キャップ凹部40の上端部にこのホルダ本体部19bを緩く挿入できる様になっている。又、このキャップ凹部40の内周面のうち、下端に位置する部分は、このキャップ凹部40の開口部（軸方向内側）に向かう程下方に向かう方向に傾斜した傾斜面部41となっている。